

新田原古墳群(児湯郡新富町)

にゅうたばる

総数207基の古墳が新富町の北西部を中心に点在し、祇園原・山之坊・石船・塚原の4つの古墳群で構成される



新田原古墳群

国指定史跡(昭和19年12月19日指定)

Nyutabaru Ancient Tomb's

一ツ瀬川と小丸川流域の古墳群

宮崎県の一ツ瀬川と小丸川流域には、今から1400年から1600年前に造られた首長達の墓が多数残されています。

両河川の流域は、宮崎県でも最も古墳群が集中的に分布しており、その数は800基以上を数えます。

特に一ツ瀬川流域の西都原古墳群には311基が、新田原古墳群には207基の古墳があり、全国的にも著名な群集墳となっています。



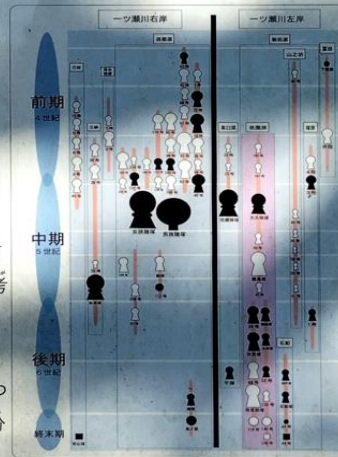
古墳の造られた時代

日本列島の各地域の首長達の多くは「前方後円墳」と呼ばれる特徴的な形の古墳に埋葬され、その大きさなどで権力の強さを誇ったものと考えられます。この時代を「古墳時代」と呼んでおり、まさに日本が中央集権国家に移り変わろうとする時期で、およそ300年続きました。

一ツ瀬川流域の古墳が造られた時期を、発見された出土品などにより推測すると、右のような図ができます。

これによると、前半には西都原古墳群に有力な首長の墓が多数あり、後半になると新田原古墳群にたくさんの古墳が造られるようになったと考えられます。

首長の権力が移り変わったのか、古墳を造る場所が変わったのか、興味深い古墳の分布を示しています。



新田原と祇園原

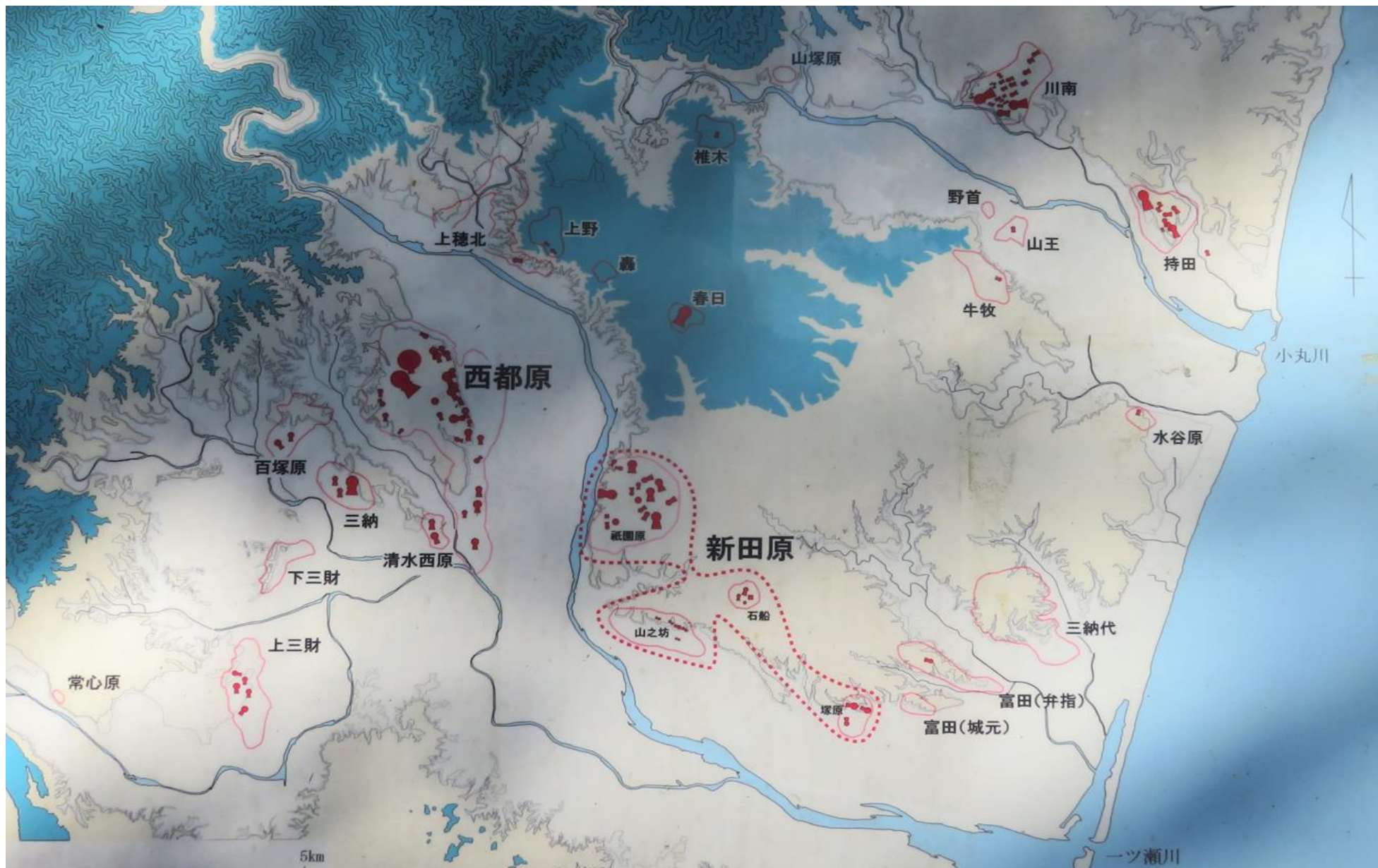
「新田原古墳群」とは昭和19年に旧新田村にあった古墳をすべて国の指定史跡とした時の名称で、実際は東から「塚原」「石船」「山之坊」「祇園原」という、4つの古墳群に分けることができます。

このうち祇園原古墳群には154基の古墳があり、古墳時代中期から後期にかけての首長達の墓が残されています。

特に古墳時代後期には宮崎県内でも最大の首長の墓が連続して造られており、その代表が59号墳、百足塚古墳、弥吾郎塚古墳です。



平成26年11月 新富町



祇園原古墳群は154基で構成され、古墳時代後期でも宮崎県内で最大の首長たちの墓があり、最大の弥吾郎塚古墳は古墳時代後期では南九州最大の前方後円墳

祇園原古墳群の案内

新田原古墳群は新富町大字新田から西都市右松にある国指定史跡です。

その分布は一ツ瀬川左岸台地上で、4つの地区に集中しているため、それぞれ塚原古墳群、石船古墳群、山之坊古墳群、祇園原古墳群と呼んでいます。

祇園原古墳群には前方後円墳14基、方墳1基、円墳139基の合計154基の古墳があり、古墳の多くは6世紀(古墳時代後期)に造られています。

発掘調査はあまり行われていませんが、平成9年度から始まった百足塚古墳の調査では周溝(古墳のまわりの堀)に転落していた埴輪が多数発見され、宮崎県でもめずらしい人物、鳥形、家形、柵形などの埴輪が復元されています。

平成4年度にはBグループで円墳の周溝から地下式横穴墓や馬の埋葬穴などが発見されています。

52号墳から発見された大刀の単龍環状柄頭は当時の中央政権から配布された威信具(権力を表したもの)でしょう。

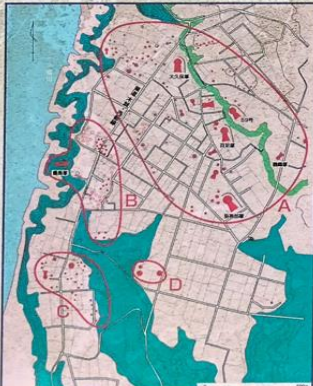
祇園原古墳群の前方後円墳の多くは6世紀において日向地方最大であり、当時の首長達の墓であろうと考えられています。

平成14年3月31日

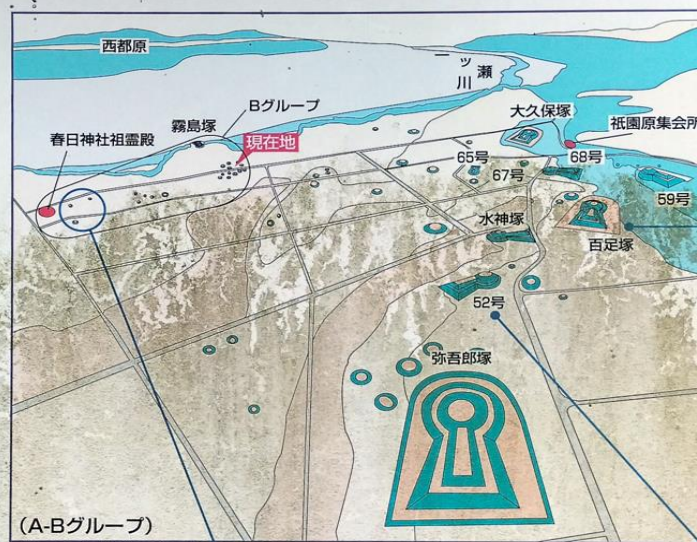
新富町教育委員会



新田原古墳群の分布



祇園原古墳群の古墳分布



(A-Bグループ) 祇園原古墳群の様子



Bグループで発見された円墳群



地下式横穴墓に埋葬された女性の土人形



馬の埋葬穴

Bグループでは29基の円墳の周溝が発見され、その周溝の内外から地下式横穴や馬の埋葬穴墓が発見されています。



百足塚古墳の埴輪出土状態

百足塚古墳で発見された埴輪は周溝の外にある周堤上に配置されていたようです。埋葬された人物の死後の世界などを表現したものともいわれています。



女性埴輪



鳥形埴輪



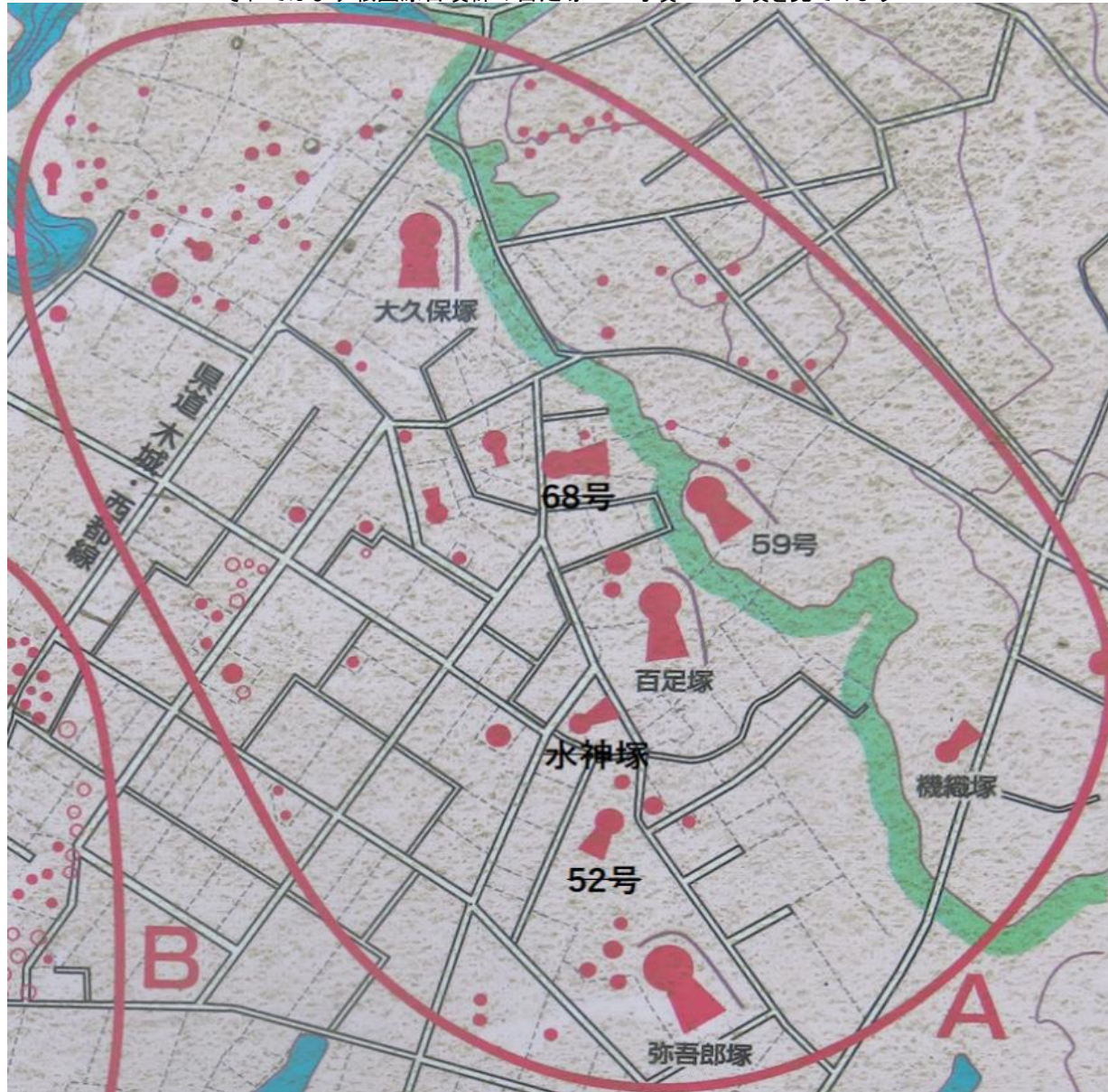
52号墳

52号墳では戦時中に掘り出された穴から大刀が発見されたといわれ、その大刀の柄の部分につけられた柄頭が残されています。柄頭は龍の頭部の周りに体を取り巻く様子を表しています。



単龍環状柄頭

それではまず祇園原古墳群の百足塚～59号墳～68号墳を見てみよう



正面は百足塚/6世紀中頃築造の前方後円墳/左手が後円部、右手は前方部

[video](#)



埋葬主体部は横穴式石室/墳丘は継体天皇陵の今城塚古墳と相似形とされる

国史跡 新田原古墳群 百足塚古墳 (新田原 58号墳)

■百足塚古墳の概要

新田原古墳群のなかでも4番目に大きい百足塚古墳は、墳長約80m、後円部の高さ約6mの前方後円墳です。後円部、前方部ともに2段で、墳丘の周辺には盾形の周溝と周堤が巡ります。出土品などの特徴から古墳時代後期前半に造られたと推測されています。

日向地方（現在の宮崎県と鹿児島県天端半島一帯）では、古墳時代後期の前方後円墳としては最大規模のもので、横穴式石室の採用や多量の形象埴輪の配置など、後期前半に活躍した首長の姿が彷彿とされます。

平成9年度から発掘調査され、平成22年から24年度に復元整備を行いました。

■横穴式石室

首長を埋葬したところは、後円部第1段に設置された横穴式石室でした。石室は、天井部を1段目のテラスの位置に配置し、古墳の裾部からスロープ状に進入するような墓道があります。内部は未調査ですが、横穴式石室を採用する古墳の少ない宮崎県域でも最初に造られた例であると考えられます。

■多量の円筒埴輪列と形象埴輪群の配置

墳丘の各段（墳頂とテラス）と周堤には円筒埴輪が並べられ、その数は1,000本におよびました。墳丘の要所と周堤の要所には、それぞれ盾形と盾持ち人形の埴輪がおかれ、古墳に近づく邪悪な魂を退ける役割を期待したものとされます。

墳丘の西側周堤には多量の形象埴輪が配置されていました。その数は現在確認できるだけでも60点以上あります。



発掘調査前の百足塚古墳（昭和50年代）



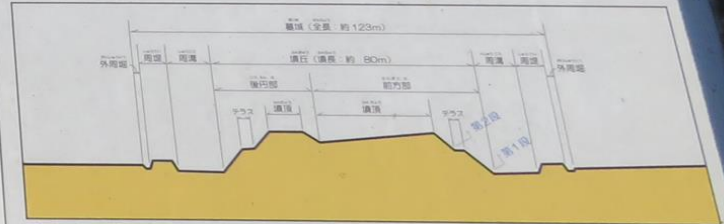
整備中の百足塚古墳



横穴式石室の入口



百足塚古墳および周辺施設



古墳の各部の呼び方

平成 25 年 3 月 新富町教育委員会



■百足塚古墳の概要

祇園原古墳群のなかでも4番目に大きい百足塚古墳は、墳長約80m、後円部の高さ約6mの前方後円墳です。後円部、前方部ともに2段で、墳丘の周辺には盾形の周溝と周堤が巡ります。出土品などの特徴から古墳時代後期前半に造られたと推測されています。

日向地方（現在の宮崎県と鹿児島県大隅半島一帯）では、古墳時代後期の前方後円墳としては最大規模のもので、横穴式石室の採用や多量の形象埴輪の配置など、後期前半に活躍した首長の姿が彷彿とされます。

平成9年度から発掘調査され、平成22年から24年度に復元整備を行いました。

■横穴式石室

首長を埋葬したところは、後円部第1段に設置された横穴式石室でした。石室は、天井部を1段目のテラスの位置に配置し、古墳の裾部からスロープ状に進入するような墓道があります。内部は未調査ですが、横穴式石室を採用する古墳の少ない宮崎県域でも最初に造られた例であると考えられます。

■多量の円筒埴輪列と形象埴輪群の配置

墳丘の各段（墳頂とテラス）と周堤には円筒埴輪が並べられ、その数は1,000本におよびました。墳丘の要所と周堤の要所には、それぞれ盾形と盾持ち人形の埴輪がおかれ、古墳に近づく邪悪な魂を退ける役割を期待したものと思われます。

墳丘の西側周堤には多量の形象埴輪が配置されていました。その数は現在確認できるだけでも60点以上あります。

墳丘図/周辺には陪塚の209号墳(6世紀後半築造の円墳)、63号墳、62号墳が所在する



墳丘からは円筒埴輪が、墳丘西側の周堤部分からは人物・動物・家などの多種多様の形象埴輪が出土した

けいしょうはにわぐん はいち 形象埴輪群の配置

■ 形象埴輪の発見

平成10年度に行った発掘調査で、墳丘の西側から多量の埴輪片が出土しました。これらはすべて、百足塚古墳が造られたときに周堤上に整然と配置されたもので、周溝や外周堀に転落した状態で発見されました。復元の結果、確認できる形象埴輪の個体数は60以上で、発見されたものとしては、西日本でも有数の数と種類となりました。

■ 種類とその配置の目的

その種類は、人物や建物のほか、鶏・犬・鹿・馬などの動物、甲冑や太鼓などがあり、神がかりして性器を見せる女性など、全国的にも出土例の少ないものもあります。

出土状況を整理すると、配置された当初の様子は「人物と建物の空間」から、「人物と動物の空間」へ変化していることが想像されます。

形象埴輪群を並べる目的にはさまざま説があり、埋葬された人物の生前の生活を再現するという説や、埋葬された人物の財産などを誇示するという説などがあります。



周堤の周辺で発見された多量の形象埴輪片



形象埴輪の出土状況



人物埴輪



人物埴輪



盾持ち人・甲冑・盾



犬と鶏



甲冑とさまざまな建物



櫓



右手前が前方部、左奥は後円部/盾形に周溝が巡らされていた

[video](#)



そこで左手を見たところ

 video



同じく、右手を見たところ

 video



前方部の墳頂に登って後円部方向を見たところ/右手前方に59号墳が見える

 [video](#)



そこで、左手を見たところ/中央前方に68号墳、左手に63号墳・62号墳が見える



同じく、右手を見たところ/中央前方に59号墳が見える



括れ部辺りで後円部を見たところ



振り返って、前方部を見たところ

 video



これは後円部の墳頂から前方部方向を見たところ/右手に水神塚が見える

[video](#)



これは59号墳/古墳時代後期(百足塚よりも後らしい)築造の前方後円墳/左手が後円部、右手は前方部/盾形に周溝が巡らされていた [video](#)



後円部の墳頂から前方部方向を見たところ

[video](#)



括れ部辺りで前方部を見たところ

[video](#)



そこで、左手を見たところ



同じく、右手を見たところ/百足塚が見える



前方部墳頂から後円部方向を見たところ

[video](#)



そこで、右手を見るとこちらにも円墳があった



前方は68号墳/古墳時代後期(59号墳よりも後らしい)築造の前方後円墳/右手前が前方部、左奥は後円部

[video](#)



前方部の後ろから見たところ

 video



前方部墳頂から後円部方向を見たところ

 video



前方部裾から後円部方向を見たところ

 video



括れ部辺りで後円部を見たところ

 video



そこで、左手を見たところ



同じく、右手を見たところ



後円部墳頂から前方部方向を見たところ/右手前方は59号墳

 video

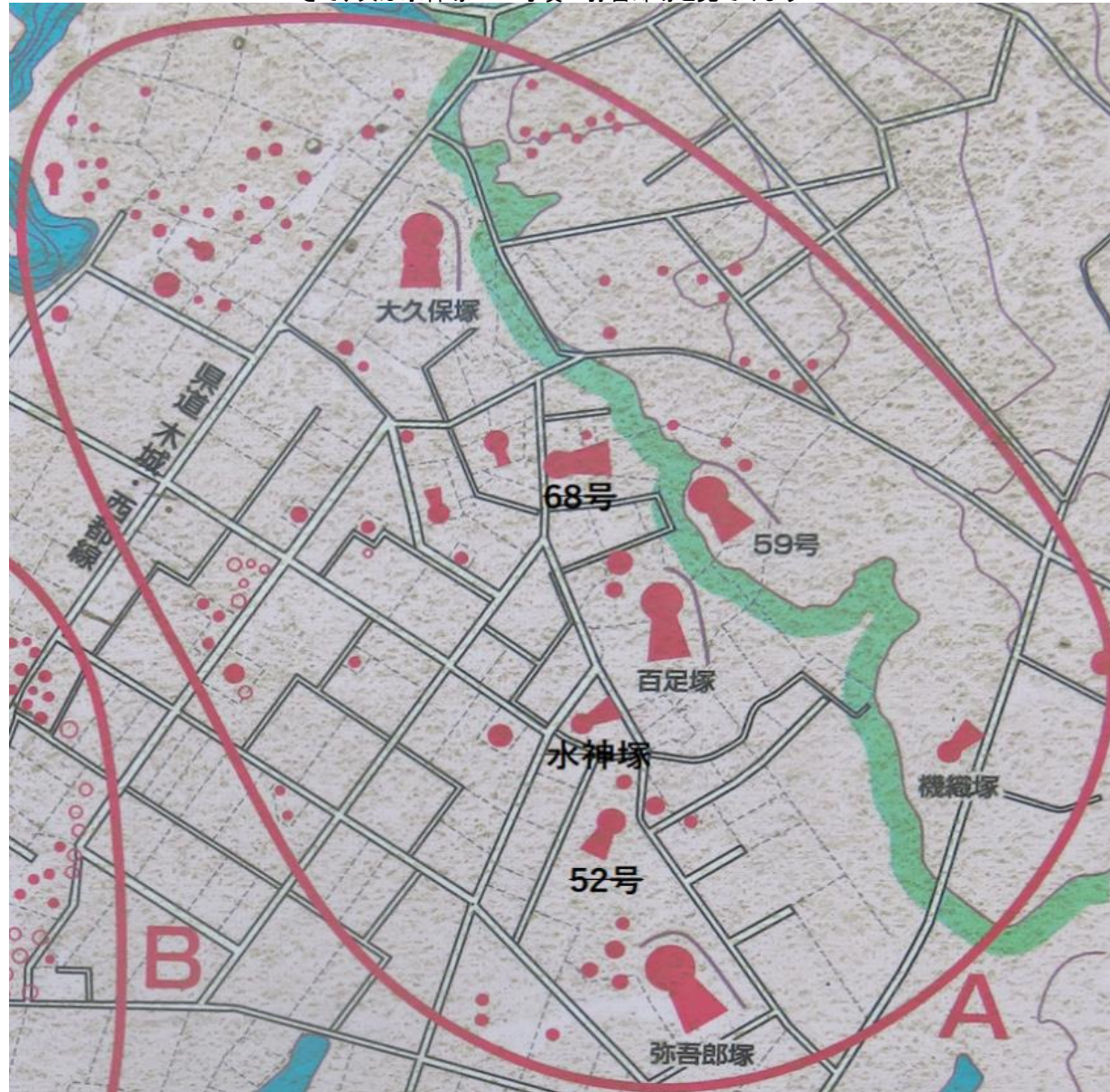


左手が後円部、右手は前方部

 video



さて、次は水神塚～52号墳～弥吾郎塚と見てみよう



これは水神塚/古墳時代後期築造の前方後円墳/左手が前方部、右手は後円部

[video](#)



反対側から見たところ/左手が後円部、右手は前方部

 video



これは52号墳/古墳時代後期(水神塚よりも後らしい)築造の前方後円墳/左手が前方部、右手は後円部

 video



これは弥吾郎塚/古墳時代後期(59号墳と68号墳の間の頃らしい)築造の前方後円墳/右手前が後円部、左奥は前方部

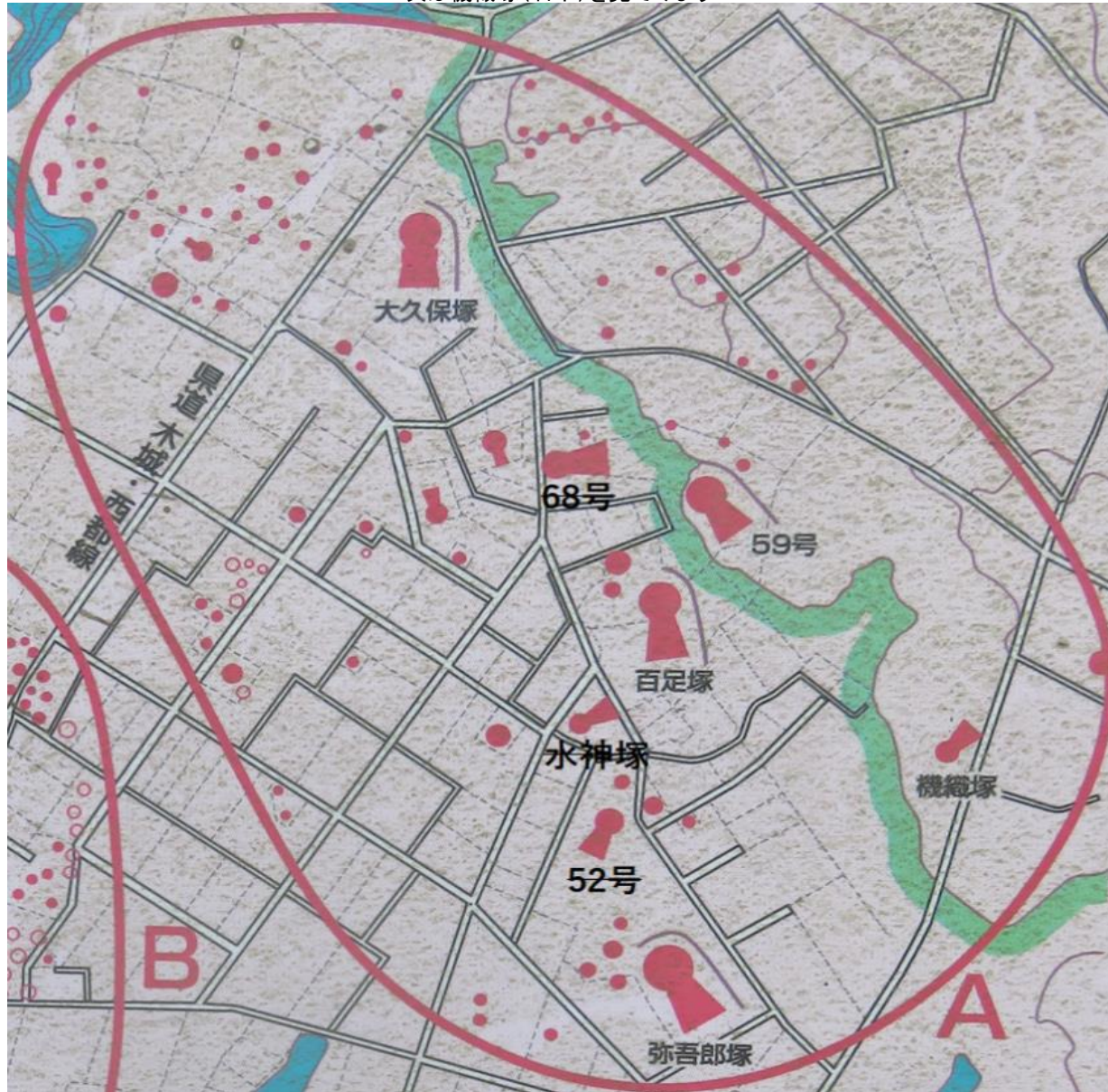


左手が前方部、右手は後円部/古墳時代後期では南九州最大の前方後円墳

[video](#)



次は機織塚(右下)を見てみよう



これが機織塚/古墳時代後期(水神塚と52号墳の間の頃らしい)築造の前方後円墳/右手前が前方部、左奥は後円部

[video](#)



反対から左手前が後円部、右奥は前方部

[video](#)



前方部の墳頂から後円部方向を見たところ/墳頂に大きな穴が開いていた

[video](#)



こんな塩梅



括れ部辺りで後円部を見たところ/後円部より前方部のほうが高いのが見て取れる

[video](#)



後円部の墳頂から前方部方向を見たところ/ここにも大きな穴が開いていた

[video](#)



こな塩梅



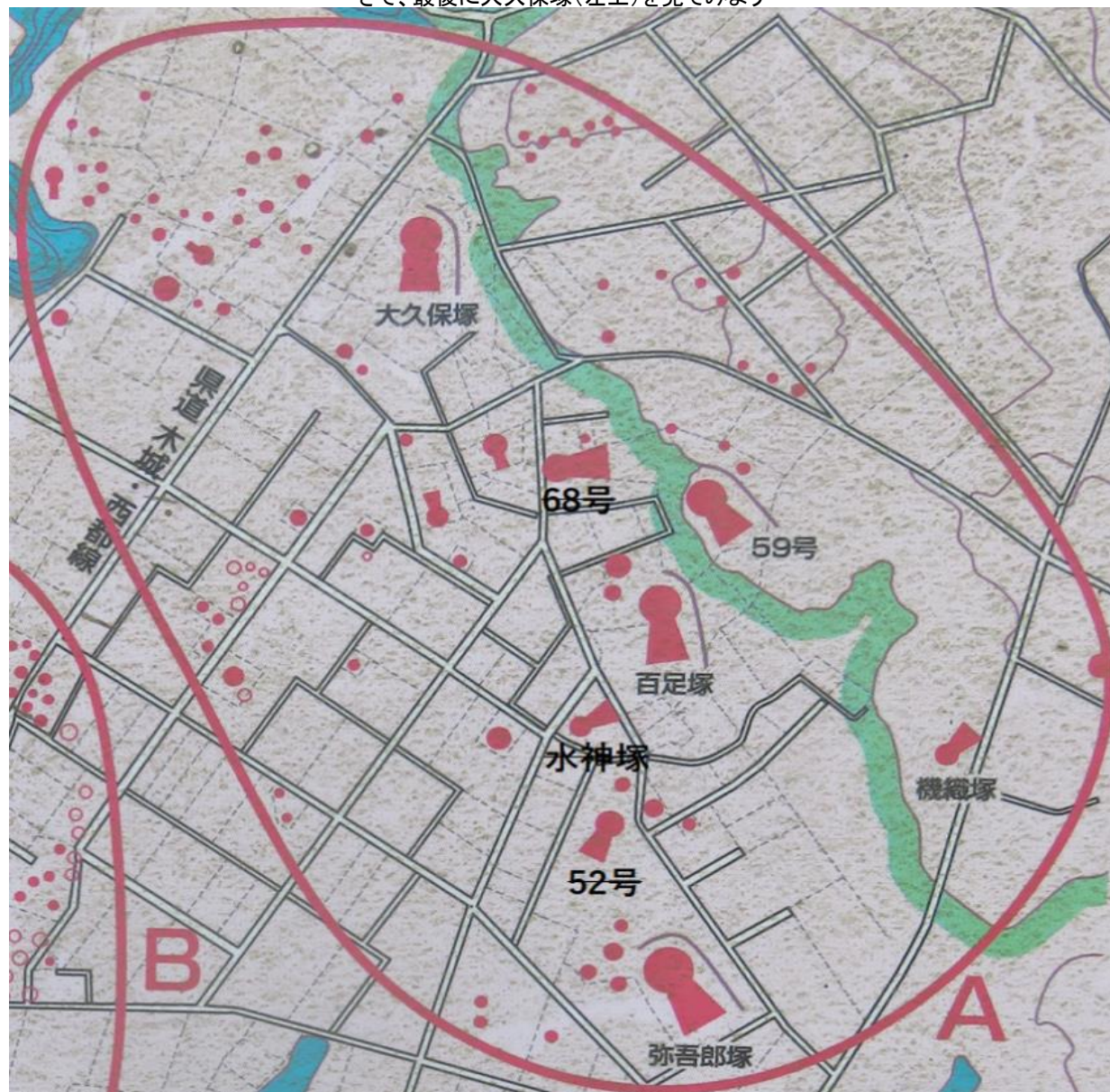
そこで、左手を見たところ



同じく、右手を見たところ



さて、最後に大久保塚(左上)を見てみよう



これが大久保塚/5世紀中頃築造の三段築成の前方後円墳/墳丘には葺石があり、盾形の周溝が巡らされており、くびれ部の両側には造出があるらしい/左手が後円部、右手は前方部

[video](#)



